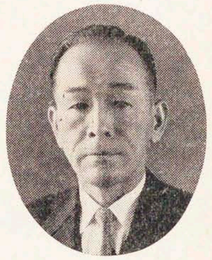
ひめまつ

第18号

宇都宮須賀高等学校生徒会

巻頭言

学校長　須賀友正



東西内外にわたって、多くのニュースと課題とを残しながら、この一年が暮れようとしている。

新年早々裏日本を襲った豪雪をはじめとして、吉展ちゃん誘かい事件、国鉄鶴見事故、三池三川鉱爆発の二大惨事等忘れ難いニュースにつづいて、十一月二十三日日米間初のTV中継の実験が成功した折も折、その第二回実験放送は、ケネディー大統領暗殺の悲報を鮮明な画面として伝えてきた。

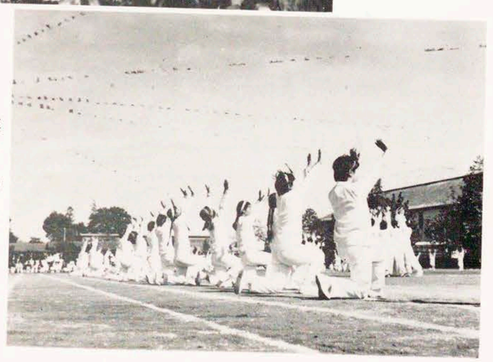
県内ではいわゆる「がんくつ王」として知られる吉田石松翁の無罪判決等の明るい話題もあったが、とかく暗くいまわしい事件が多かったことは悲しい極みである。しかし世界の動き全体としては、平和共存の大きい流れにそって、人類の幸福と繁栄とを願う方向に進んでいることは、人間の善意と良識とを信ずる私共として、まことに喜ばしいことである。

ひるがえって、わが学園の一年を顧ると、まず大局から見て大過なく所期の教育活動を推進することができ、特にかねての計画であった鉄筋コンクリート四階建、十二教室、建坪三八五坪の新校舎が竣工、三学期から使用できることになり、かつ新年度からは本県にはじめての高校音楽科を新設し、音楽文化の向上に寄与する基盤をつくり得たことは御同慶に堪えない。クラブ活動面では、音楽部がNHK全国学校音楽コンクール器楽合奏で、関東甲信越に第一位、全国第四位（女子としては第一位）ソフトボール部また全日本大会において準優勝の栄冠をかち取ることができた。演劇部も今年は華々しく活動を開始、弁論部と共に優秀な成績をおさめ、文芸部は機関誌「青の季節」を創刊、生徒会また待望の学校新聞「須賀高新聞」を発行する等、文化・体育両面にわたって積極的に活動した。なお秋季大運動会における仮装行列等は、楽しい思い出として強く印象づけられている。同総会の第一回有志会も盛大に催され、来春早々総会が持たれる運びにいたったことも喜ばしい。

一九六四年は東京オリンピックの年である。あの若さに溢れた力強いオリンピックの歌と共に、わが須賀高も堂々と邁進し、輝く六十余年の伝統の上に二大飛躍を試みようではありませんか。（三八年十二月）

演劇部

オーケストラ



運動会

ひめまつ 第十八号 目次

巻頭言……学校長 須賀友正……1

農村生活への意見

高校生の生き方……横地絹子……4
農家の皆さんごくろうさん……印波秀子……5
進みゆく農村……川島和子……5
農村に生きる課題……為川敦子……6
生きがい……阿久津芳子……6
父の手……早乙女ヨシ子……7
適応すること……松本奈美子……7
農村は私たちのふるさと……橋本エッ子……7
悩みの種……野口シズエ……8
改善を希って……山本美弥子……8
職業としての誇り……鈴木康子……9
農村と都会との比較……荻原孝子……9
農村人の都会就職……山形静江……10
ドレス……鈴木信子……10
現状をみつめて……坂本道子……11
私はこう考える……斉藤敏子……11
農村を脱脚する青年……棟方絢子……12

特別寄稿

第十八回国民体育大会に出場して……前田瑞子先生……13

水が飲みたい……井上悠逸先生……14
母校の有難さ……平野史子……16
さる人よりカナリヤを譲らる……阿部豊三郎先生……18

文集

詩……19
短歌……25
俳句……26
作文……28

一年の歩み

須賀栄子先生をしのぶ……32
第四回定期音楽会……32
私の目からみたクラブ……33
ソフトボール全国大会……33
生徒総会……34
一年の歩み……34
校内球技大会……35
秋季大運動会……36
クラブの足跡……37
ホーム・ルームの横顔……57
生徒会役員一覧……31
進路状況……62
年間行事……63
職員住所録……65
編集後記……65